

参考資料：事業概要

当事業の目的

- ① 21世紀を代表する日本画家である平松礼二氏の原画をもとにしたステンドグラス作品によるパブリックアート普及の重要性を訴求
- ② パブリックアートを通じて芸術に慣れ親しむことによって、社会モラルが高まる環境の創出
- ③ 東京都の観光資源開発と地域活性化への貢献

設置場所

東京臨海新交通臨海線(ゆりかもめ) 新橋駅

題名

「四季・東京ベイ」

規模

ステンドグラス 約37㎡ レリーフ 約9㎡

原画・監修

日本を代表する日本画家 平松礼二氏

ステンドグラス製作

クレーレ熱海ゆがわら工房
(所在地:静岡県熱海市泉230-1)で職人が製作中。



作家プロフィール

■日本画家

平松礼二(ひらまつ・れいじ)

1941年 東京都出身

横山操を生涯の師と仰ぎ、印象派を代表するモネの作品に心を奪われる。伝統的な日本画技法と印象派を取り入れ、

革新的な日本画を製作。その代表として、「平松礼二 モネへのオマージュ」など。国内外からの評価も高く、町立湯河原美術館に平松礼二館が設置されるなど、日本だけでなく活躍の場を世界へと広げている。2000年から11年間「文藝春秋」の表紙画も担当した。



作品について

正面のステンドグラスには、日本の世界遺産である「富士」と東京都の鳥である、「ゆりかもめ」が一羽、一面に広がる青い海を渡る姿が描かれています。左右のステンドグラスには、日本の四季を彩る春の「桜」「梅」が咲き乱れる様子と、秋の「紅葉」が燃え盛る姿が繰り広げられ、鮮やかな景色が浮かび上がります。

印象派の研究から日本文化の源流を探る試みを経て、日本美術の意匠の美にたどり着いた平松礼二先生が追求されてきた琳派モダン※の華麗なる世界を、ステンドグラスに置き換えて展開します。2020年東京五輪・パラリンピックを控え、多くの海外からのお客様を迎える中、この作品を通じて日本の魅力を伝えていければと思います。

※西洋のジャポニズムにも影響を与えた琳派は、桃山時代の俵屋宗達(たわらや・そうたつ)から始まり、江戸時代の尾形光琳(おがた・こうりん)、酒井抱一(さかい・ほういつ)などが師弟制度によらず私淑により継承した独特の流派です。やまと絵の様式を基調に、日本人の自然観や美意識を斬新な装飾技法で表現しているのが特徴です。